

韋 かばん

安部公房 あべこうぼう

内容理解

この文章で筆者は、求人広告の応募者と採用者との不思議な問答を描き、韋という道具に全くの新しい意味を見出している。本文を読み直しながら、空欄に入る適切な言葉を補ってみよう。

← 応募者の登場 (くたびれた服装、目元が明るく、 ¹ そうな印象を与える青年が、半年

前の求人広告に、 ² にも応募してきた。)

← 応募者と採用者 (「私」との会話

応募者…やはり、駄目でしたか。(肩の荷を下ろした感じで、引き返しかける。)

採用者…半年前の求人広告に、なぜ応募する気になったのか、説明してもらいたい。

応募者…迷ったあげく、一種の ³ で、結局ここしかないことが分かったわけです。

採用者…具体的に言ってごらんよ。

応募者…この韋のせいでしょうね。選ぶことのできる道が、おのずから制約されて、韋の重

さが、僕の行き先を決めてしまうのです。▲……………

採用者…韋を持たずにいれば、必ずしもうちの社でなくてもよかったわけか。

応募者…韋を手放すなんて、ありえない ⁴ を立ててみても始まらないでしょう。

採用者…うちで採用してあげられなかったら、どうするつもり。

応募者…振り出しに戻ってから、また改めてお願いに上がることになるでしょうね。地形に

変化でも起きない限り……………。

採用者…君の体力とか、韋の ⁵ とか、新しい道とか、 ⁶ が起きたら……………。

← 応募者…そんなに僕を雇いたくないんですか。

語句

この文章の中で使われていた次の言葉を使って、短文を作ってみよう。

非常識 (五二・一)

消去法 (五二・17)

制約 (五三・9)

可能性 (五四・9)

採用者…⁷ を論じているだけさ。君だって、もつと⁸ な立場で職選

ができれば、それに越したことはないだろう。

応募者…この鞆のことは、だれよりも僕がいちばんよく知っています。

採用者…なんなら、しばらく、預かってあげようか。

（鞆の中身についての問答——つまらないものばかり・貴重品でない）

知らない人間が見たら、どう思うかな。君は、腕っ節の強いほうでもなさそうだし、ひつたりや強盗に目を付けられたら、お手上げだろう。

（青年は小さく笑った。笑っただけで、別に返事はしなかった。）

採用決定 （私も負けずに、声を立てて笑う。）

採用者…君の⁹ も、なんとなく分かるような気がするな。いちおう、働いてもらうことにしよう。

（応募者は下宿の下見に出向き、当然の成り行きとして鞆が残される。）

「鞆」を持つ「私」

（なんということもなしに、鞆を持ち上げ、歩き始める。ちゃんと¹⁰ が私を導いてくれている。選ぶ道がなければ、迷うこともない。私は嫌になるほど自由だった。）

主題

この作品で作者はどのようなことを描こうとしたと思われるか、次のことに着目して、百字程度でまとめてみよう。 〈着目点…「鞆」という道具の役割〉

発展

次の中で興味を持った事項について、図書館の書籍やインターネットなどを使って調べてみよう。

・安部公房の小説『赤い繭』はどのような展開の物語で、『鞆』との共通点はどのようなことか。

・劇作家としての安部公房の活動は、どのようなものだったか。

・「風刺」という手法は、社会的にどのような意味合いを持って来たか。

100